

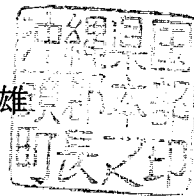


本 建 第 466 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長

本部町長 高 良 文 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました、標記について別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

沖縄県本部町

- ・ 当町の幹線道路である国道449号は、以前から4車化を図ってきているところだが、一部港湾区域に架かる橋梁において、港湾事業等多分野と積極的に連携することにより早期に全線の4車化を実現し、観光拠点へのアクセスの向上を図るべきである。
- ・ 本部半島を考えたときに、国道449号とともに国道505号についても4車化あるいは、付加車線(現道をグレードアップ等)を図り、半島1週道路を構築することにより道路ネットワークを強化し半島の観光支援・活性化を図るべきである。
- ・ 本部半島の一週道路(国道449号・505号)と一体となった中央縦貫道路としての県道名護本部線を・県道114号線追越し車線等付加車線の整備、ユニバーサルデザインのバリアフリー歩道の整備を要望する。
- ・ 新規の道路の構築は、環境に配慮した計画として欲しい。また、既存の道路のグレードアップを図ることで地域の道路ネットワークを強化するべきである。
- ・ 昨今当町においては、道路の維持管理費の不足が深刻で、夜間時の道路照明さえ費用が捻出できないことから消燈することを検討している状況である。道路は、作るだけでなく適切な管理がより重要だと考えられることから、管理をみこした道路整備を行うべきである。
- ・ 安全・安心の観点からも道路特定財源を交付金とは別に道路の維持管理にあててはどうか、また他の分野との積極的な連携という意味も含めて地域産業道路の管理にも充当できるよう複合予算化等を検討できないか。(国土交通省以外の道路にも)

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

沖縄県本部町

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

- ・例えば、既存の2車線道路である名護一本部線については交差点における直進車と右左折車の混在や、バスの乗り降り時の停車が著しい渋滞を招いている。
- ・県道名護本部線・県道114号線の歩道は、海洋博覧会と同時に整備され、歩道内に排水や植栽樹があり狭い歩道であり、歩行者が歩きにくい歩道になっている。

○課題

- ・右左折車線設置等による交差点改良やバス停のバスベイ化を図る等の対策により幹線道路としての機能を改善し、地域連携の向上を図り地域の活性化を支援するべきである。
- ・沿線沿いには、国際的な海洋博記念公園があり、観光地にもなっており沿線歩道の改善が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

様式③

沖縄県本部町

②-2 地域の目指すべき将来像

- ・ 観光支援の観点から、駐車スペースを確保した観光スポットや適切な追い越し車線の設置、及び植栽管理の充実等を図る必要がある。